

WATER REVIEW 2024

FROM STOCKHOLM

2024 スtockホルム国際水週間 速報 Vol.1

2024年8月28日(水)

水の "首都" から 平和と持続へ



8月26日午後に行われた開会式



ストックホルム青少年水大賞

青森・名久井農高 赤石さん、白鳥さんが参加

8月27日、ジュニア世代の水に関する活動をストックホルム青少年水大賞の表彰式が行われた。

水に関する活動、研究を行う世界各国の高校生世代が集い、スウェーデンのヴィクトリア皇太子が出席される中で行われた。

日本からは「水を有効利用する節水型ミスト栽培システムの開発」に取り組み、日本ストックホルム青少年水大賞を受賞した青森県立名久井農業高校3年の赤石紫音さんと白鳥澁弥さんが参加した。

赤石さん、白鳥さんは、会場内で行われた英語によるプレゼンテーションに臨み、自らの活動を紹介した。

表彰式では、翌日にストックホルム水大賞の授与式に臨む東京大学の沖大幹教授がスピーチに立った。

沖教授は、「若い頃に挑戦的な目標を設定し、それに向かって弛まぬ努力をする経験は何物にも代えがたい。共通の目標に向かい協力する経験は、将来の人生の多くの場面で役立つ。世界が直面する課題に皆さんの才能が多く分野で必要とされている。水問題への取り組みは持続可能な開発にとって重要だが、プラスの影響をもたらす道は他にもたくさんある。経験を通じて得たスキルと洞察力を、すべての人にとってより良い未来を築くために活用してほしい」と述べ、参加者全員の努力と、チームとして取り組んだプロセスを称えた。

(写真：左から赤石さん、白鳥さんと沖教授)

ストックホルム国際水週間が開幕 沖教授授賞式も

2024 スtockホルム国際水週間は8月25日、スウェーデン・ストックホルムのWaterfront Congress Centreでスタートした。29日にかけて、世界中の水の専門家が集い、約300のセッションが繰り広げられる。

ストックホルム国際水週間は世界で最も権威のある水関連行事と言っても過言ではない。第1回は1991年で、その後毎年開かれてきた。国際社会が環境問題に舵を切る契機となった国連・地球サミットの開催が1992年であり、世界水フォーラムの初開催が1997年であったことから、国際社会に先駆けて水をグローバルな課題と捉え、世界の水議論を牽引する存在であったことがわかる。

今年のテーマは「Bridging Borders: Water for a Peaceful and Sustainable Future」、国際社会を巻き込む紛争、気候変動の中で、平和・持続可能性と密接に相関する「水」の視点でアプローチを図る。

ストックホルム国際水週間のハイライトとなるのが、ストックホルム水大賞の授賞式の関連イベントとなる。同賞は、一年に一度、世界で最も優れた水に関する業績を挙げた人物・団体を表彰するもので、水のノーベル賞と称される。受賞者はノーベル賞を選考するスウェーデン王立科学アカデミーの協力によってストックホルム国際水研究所が選考。ノーベル賞と同じく、授賞式・晩餐会がストックホルム市庁舎で開かれ、トロフィーはスウェーデンのグスタフ国王から授与される。

今年は、日本の水文学者である東京大学の沖大幹教授が選ばれた。同賞の34年の歴史の中で、日本の関係者が選ばれたのは3人目となる。1994年に建設省の初代下水道部長を務めた久保起氏が日本人として初受賞。2001年にはカリフォルニア大学デービス校名誉教授の浅野孝氏(受賞時は米国国籍)が受賞している。沖教授の受賞は、日本を拠点とする日本人研究者では初となる。

沖教授は26日に開かれた開会式に出席。同賞受賞者として紹介され、祝福を受けた。

記念スピーチとディスカッション(Stockholm Water Prize:Meet the Laureate)は28日9時(現地時間)から、そして同日夜には授賞式・晩餐会が行われる。

記念スピーチとディスカッションは登録(無料)すればオンラインでライブ視聴できる。

沖教授のスピーチに世界の水関係者が注目する。

沖教授のスピーチは登録すればオンラインで無料聴講可能

<https://worldwaterweek.org/tickets>

